

労働と社会をめぐる歴史研究の現在とその継承

—— 柘田大知彦の仕事を踏まえて ——

趣 旨

労働史ないし労働組合史をはじめとする労働と社会をめぐる歴史研究は、経済史および社会政策論などの分野においてその知見の与える貢献は極めて大きい。その研究過程で集成された夥しい資料群が現在の諸研究においても重要な価値をもっていることを意識し、本研究所でも藤本文庫を労働科学研究所から受け入れ、公開に向けて整理と検討を進めているところである。にもかかわらず、これに関わる研究の専門家自体は希少となっており、その内容と意義の把握が適切になされているとはいいがたい。

以上の点を踏まえ、本シンポジウムでは労働と社会をめぐる歴史研究の現在とその継承をテーマとする。そこで本研究所所員として長らく貢献し、政治経済学・経済史学会（旧土地制度史学会）ならびに社会政策学会において重要な職務についてこれ、昨年 8 月に急逝された故柘田大知彦氏の業績に対する評価をとば口として、本企画を以下のとおり構成する。

日 時 2025 年 10 月 12 日（日）13:00～18:00

場 所 専修大学神田校舎 10 号館 16 階 相馬永胤ホール

参加申し込みについて

本シンポジウムへの参加について、事前のご連絡は不要です（参加費無料）。ただし、懇親会（会費：5,000 円）へのご参加を希望される方は、右の QR コードもしくは下のリンクから事前にお申し込みください。



●お申し込みフォーム：<https://forms.gle/RBrAJx6A8dZ9scUo9>

プログラム

コーディネーター	恒木健太郎（本所所員，専修大学教授）
13:00～13:05	主催挨拶 樋口 博美（本所所長，専修大学教授）
13:05～13:10	開会挨拶 齊藤 佳史（本所所員，専修大学教授）
13:10～13:40	第 1 報告 柘田大知彦の労働組合史研究と音楽研究の方法的特徴と可能性 小野塚知二（東京大学特任教授）
13:40～14:10	第 2 報告 柘田大知彦の労働組合史研究とドイツ経済史研究の課題 森 良次（広島大学教授）
14:10～14:30	休 憩
14:30～15:00	第 3 報告 労働組合組織形態の英独比較——柘田大知彦の業績を素材に—— 栗原 耕平（本所所員，専修大学助教）
15:00～15:45	ディスカッション
16:00～18:00	懇 親 会

問い合わせ先

専修大学 社会科学研究所

E-mail shaken@isc.senshu-u.ac.jp

TEL 044-911-1089

主催：専修大学社会科学研究所

後援：社会政策学会，政治経済学・経済史学会